

# 奄美地域におけるトルコギキョウの定植1か月以降の効率的なかん水方法

トルコギキョウは、定植1か月後から収穫まで週1回20mmかん水(pF2.0以下)により高品質の切り花生産が可能

## 背景・目的

- 奄美地域では冬～春期に無加温でのトルコギキョウ栽培が増加
- 効果的なかん水方法が定まっておらず、切り花品質が不安定
- 畑かん水を効果的・効率的に利用する奄美地域型栽培技術の確立が必要
- 主力品種である「ボロホワイト」の3～5月出し栽培で効率的なかん水方法と安定生産技術が必要

## 成果の内容

- 定植1か月後から収穫まで週1回20mmかん水(pF2.0以下)で管理すると、ブラスティング(蕾の生育が止まる現象)が発生せず、切り花品質が高い

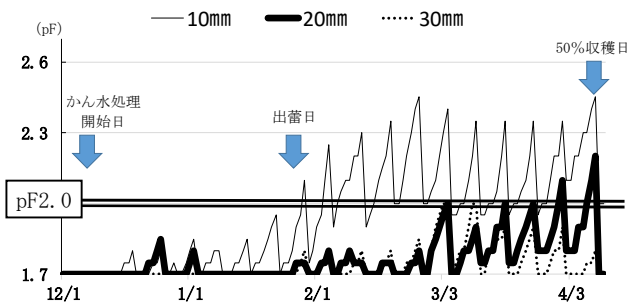


図 かん水量の違いが土壌水分(pF)に及ぼす影響

表 かん水量の違いによる収穫日と切り花品質への影響

かん水 量/週	50% 収穫日 (月/日)	草丈 (cm)	輪数		ブラスティ ング率 <sup>2)</sup> (%)	秀品率 <sup>3)</sup> (%)	商品化率 <sup>4)</sup> (%)
			花 (輪)	蕾 (輪)			
10mm	4/9	83.8 a	3.1 a	3.1 a	2.7	77.1	97.9
20mm	4/8	88.5 b	3.1 a	3.1 a	0	91.7	97.9
30mm	4/11	88.4 b	3.6 b	3.6 b	0	93.8	100

注1) 表中の異なる英字間には1%水準で有意差あり

注2) 花数と蕾数の合計に対するブラスティング割合

注3) 秀品率：草丈60cm以上、花数3輪以上、茎径5mm以上の切り花割合

注4) 商品化率：草丈50cm以上、花数2輪以上、茎径4mm以上の切り花割合

暗赤色土では、週1回20mm  
かん水で、pF2.0以下となる



ほ場ごとに栽培環境が異なる  
ため、pF2.0を目安に最適な  
かん水方法を適宜検討する



## 期待される効果

- 切り花品質の向上
- 効率的な畑かん水の利用



- 普及対象・範囲  
奄美地域トルコギキョウ栽培農家

鹿児島県農業開発総合センター  
徳之島支場 園芸土壌研究室